

# 令和6年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

A: 十分満足 B: おおむね満足 C: もう少し努力すべき D: 大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
<p>関わり合った学びを続ける生徒</p>	<p>①学習に対する生徒の意欲が高まるようなクエスチョン型の学習課題とすることで、主体的な学びの機会となるようにする。 ②学んだ知識や技能を対話によって関連付けることを通して、課題解決のための深い学びができる授業展開を研究し実践する。 ③家庭学習の望ましい取り組み方を指導し、家庭との連携に努め、習慣化と確かな知識・技能の定着のための支援を行う。</p>	<p>・他の生徒や教師と関わり合いを持ち、課題を解決している。 目標値75% →92%  ・課題を自分事として捉え、課題解決に向けてじっくり取り組むことができる。 目標値75% →89%</p>	<p>B</p>	<p>○生徒にとって必要感のある学習課題となるように工夫したりICT機器を積極的に活用したりしたことにより、授業内容に興味を持ち、前向きな姿勢で学習に取り組むようになってきた。また、調べ学習や教え合い学習において、主体的な学習態度が見られる。 ○知識や技能の習得のため、生徒同士の対話的活動を積極的に取り入れたことで、深い学びができる授業が増えてきた。 ※教科や単元によって、意欲的な授業態度に差が見られるときがあった。学年が上がるにつれて改善傾向である。 ※学んだ知識や技能を用いて考えを表現することに苦手意識がある生徒が多い。授業者が導くことで、課題解決に向かうことができつつある。 ※授業内で学んだことや理解できたことが定着しきれない生徒がいる。指導方法の更なる工夫が必要である。</p>	<p>・夏休みの補充学習会に講師として参加したが、1年生で英語の内容がほとんど理解できていない生徒がいた。学力のサポートをしてあげたかったが、数回の学習会では難しかった。 ・授業見学をして、生徒がタブレット端末をスムーズに操作している様子があり、使い慣れている様子が伺えた。 ・生徒の自己評価は高いが、保護者や教師との評価の差がある。内容を理解できていないのにわかったと勘違いしているのではないか。</p>
<p>協自力分すや友達を大切に</p>	<p>①「生徒の計画と教師の支援」→「生徒の実践」→「生徒・教師の振り返り」のサイクルを継続し、生徒の取組の過程を認め、褒めたり改善させたりする指導を行う。 ②生徒会・委員会活動、部活動、学校行事等を通して、生徒の話し合い・練り合いの場を設定し、生徒が活動について深く考え、主体的に取り組むことで、活動後の達成感を高める。 ③エンカウンターや人間関係づくりプログラムなどの活動を通して、生徒一人一人の理解を深め、互いのよさを認め合う雰囲気・場面づくりを充実させる。</p>	<p>・生徒会や学級活動、学校行事の目的を理解し、掲げた目標に向かって仲間と協力しながら取り組むことができる。 目標値90% →93%</p>	<p>A</p>	<p>○生徒が主体となって学級や生徒会の活動を運営していくことができるよう、学級担任や生徒会担当者が意識して取り組んだ。 ○学校行事や部活動においても、生徒同士による話し合いの場を設定し、よりよい活動について考えたり振り返ったりすることができたため、生徒は大きな達成感や充実感を得られた。 ※人間関係が成熟しきれないため、生徒間のいざこざやトラブルが見られたが、早期発見・早期解決を目指して生徒指導主事を中心に取り組んだ。 ※海外にルーツを持ち家庭が一定数いるため、家庭連絡の際には非常勤の市通訳と連携し、家庭の理解が得られるよう丁寧な対応を心掛けた。</p>	<p>・現代の生徒は、パソコンやネット上での経験は豊富で、いろんなことができるようだが、先日芋ほりを一緒にやったときにスコップを使うことができない生徒がいた。授業や行事での活動を通して、道具の扱い方や人間関係づくりも大切にしていってほしい。 ・地域社会としては、災害が起こったら中学生は戦力だと考えている。指示がなくても動けることや知力体力に期待している。</p>

<p>自身を鍛えて行動する生徒</p>	<p>①掲示物等で目標を見える化し、PDCAサイクルを確実に行うことで、継続して挑戦し、努力する習慣を身に付ける。 ②「はまぼうチャレンジタイム」を計画的に実施し、生徒の自己肯定感やレジリエンスを高めるための指導・支援を行う。 ③生徒の様子を観察し、小さな変化を見逃さないようにするとともに、教育相談やアンケート等を通して、生徒の悩みや相談に寄り添える機会を確保していく。</p>	<p>・目標をもち、達成に向けて努力し続けたり、あきらめずに挑戦し続けたりしている。 目標値80% →93%  ・自分や友達を認め、互いに尊重し合うことができる。 目標値80% →97%</p>	<p>B</p>	<p>○学校生活における目標を設定して教室等に掲示したりキャリアパスポートに記入したりして、目標を意識して学校生活を送るようにした。 ○教育相談において生徒個々の理解を深め、日々の指導に生かすことができている。Web相談窓口も継続して開設している。 ○コミュニケーショントレーニングを計画的に実施し、「相手に伝わる話し方」や「うなずきながら聴く」等の生徒の表れを見付け、肯定感が高まる手立につなげることができた。 ※失敗や挫折を感じたときに立ち直ることができるレジリエンスの強化が必要な生徒がいる。教員対象の研修会や全生徒を対象にレジリエンスについての講話を実施しているが、目に見える大きな変化は表れていない。</p>	<p>・保健室や別室で生活する生徒、不登校の生徒がいるが、その子たちへのサポート体制はどうなっているか。個々の状況に応じた支援は大変だと思うが、地域としてできることがあればボランティアを募って学校に協力したいと考えている。 ・親の心の安定が子どもの安定に関係していると考えている。親への教育も地域としてやっていきたいが、機会がなかなかない。何か良いアイデアはないか。</p>
<p>「地域社会に誇れる福田中学校」</p>	<p>①多様な視点で生徒のよさを見つけ、認め、価値付けする声掛け（ボイスシャワー）を充実させる。 ②地域の活動に関するボランティア活動を積極的に募集し、自主的な活動を促すことで、地域の一員としての自覚を育て交流する機会を作っていく。</p>	<p>自分のよさを生かし、一歩前に出てチャレンジしようとする気持ちを持つことができる。 目標値85% →89%</p>	<p>B</p>	<p>○生徒会が企画した清掃やあいさつのボランティア活動に多くの生徒が参加し、積極的な姿勢が多く見られた。また、地域の行事等のボランティアを募集し、実践した。 ○学校行事や部活動において、仲間と協力して取り組むことのよさや充実感を味わい、自分の存在価値に気付くことができた。 ※自分の役割を果たすことや友達を思いやる行動が学級や学年、学校の雰囲気を高めていることに気付くことができる手立てを講じていきたい。 ※交通マナーや地域の方々へのあいさつの面では、まだまだ不十分である。意義や目的の理解や道徳心の育成を実践していきたい。</p>	<p>・生徒が挨拶をしてくれたり、学校に来た時に生徒が頑張っている様子等に取り組んでいる様子を見ると嬉しくなる。 ・地域のボランティアを学校が取りまとめて実施してくれたおかげで、地域にとってもとてもよかった。来年度も続けてほしい。 ・交通ルールが守られていない様子は頻繁に見られる。命に関わることで改善したい。</p>

### 学校関係者評価を受けてのまとめ

- ・全体的に、今年度の学校運営や生徒が頑張ってきた様子について、概ね良い評価をしていただけたと捉えている。来年度は、本校の課題である学習面での指導方法の改善や交通安全指導の徹底が図れるように、全校体制で取り組んでいく必要がある。
- ・学校行事や地域ボランティアの呼び掛けなど、生徒が生き生きと活躍する姿は地域に元気を与えることにもなるので、今後も継続していく。
- ・例えば、「清掃は無言ですることよりもきれいにすることが目的であるはず。何のための清掃なのかを教師が示すことよりも子供たちに考えさせてはどうか。」と指摘していただいた。とても大切な考え方なので、今後に生かしていきたい。
- ・地域人材として、授業サポートや講話の申し出があり、大変有り難いことである。教育課程の中でどのように連携できるのか検討していきたい。